

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202873		
法人名	有限会社 丸モ水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1番5号		
自己評価作成日	平成23年11月16日	評価結果市町村受理日	平成24年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202873&amp;SCD=320">http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170202873&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳を大切に、一人ひとりの能力やニーズに合わせた支援を心掛けています。毎月2回の外出行事の他、児童会館や保育園との交流など積極的に行っています。日々の生活の中に利用者様の笑顔が沢山みられるようなホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の笑顔を支えるため、管理者、職員一丸となって、日々ケアサービスについて、振り返り、前向きな検討を行い、毎月目標を決めて業務に努めています。きめ細やかなケアサービスにより利用者、家族の安心に繋がっています。地域との交流も活発で、町内会を始め、児童会館、保育園と定期的に交流し、小学生の課外授業での訪問や高校生のヘルパーの講習なども受け入れています。人材育成にも力を入れ、レベルアップを目標に、職員研修を行っています。月2回の外出の機会があり、利用者も、色々なところへ出かけ、生活を楽しむ選択肢があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との繋がりを踏まえた法人理念と、その理念を元に職員全員で考えたユニット理念を掲げている。理念はユニット内の数箇所に貼り、理念に沿ったケアの提供を心がけている。	法人理念とユニット理念があり、日々のケアが理念に沿ったものになるよう、管理者、職員一同で、ユニット会議等を通し、日々のケアの振り返り、あり方等、模索しながら意識付けをし、ケアサービスの基本としています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の児童会館や保育園との定期的な交流や小学校の課外授業での来訪などが行われている。またホームの夏祭りには町内の方の参加もあった。	町内会に加入し、近隣公園で開催される町内の祭り「モイレわが町」を見学したり、ホームの夏祭り、保育園の運動会への参加、小学校の課外授業や高校生のヘルパー講習の受け入れなど、地域と活発に交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に出席の地域の方向けに、認知症の人の理解に繋がるビデオを観ていただいたりした。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催している。ホームの近況報告、行事、防災などについて報告を行い参加者から意見や感想をいただいている。	会議は、系列のホームと合同で開催しています。幅広いメンバーの参加により、近況報告、行事、レクリエーション、ヒヤリハット、災害訓練、外部評価等、多様な議題について、活発に討議され、サービスの質向上に活かしています。	会議の議事録は、欠席家族に周知されていません。家族へ周知することで、理解を深め、家族の出席が偏りがちな状況を変えるきっかけとなり、サービスの向上に繋がることを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況報告と事故発生時の報告を行っている。	推進会議には、民生委員、地域包括支援センターの方も出席しており、ホーム運営等については、把握しています。生活保護の関係により、ケースワーカーの訪問もあり、必要に応じて、相談や助言をいただく協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ防犯の為に施錠している。身体拘束をしないケアについてマニュアルを作成し職員は拘束をしないケアに取り組んでいる。	具体的なマニュアルを作成し、ユニット会議や研修を通し、職員へ周知徹底しています。日々のケアサービスを行う上でも、職員同士のコミュニケーションを大切に、不適切な場合は、速やかに指導する体制となっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員にはオリエンテーションの際に説明を行っている。身体的にはもちろんのこと言葉による虐待がおきていないか職員間でも注意をはらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加して学んでいる職員もいるが全員ではない。今後はミーティングや事業所内の勉強会にて全員に学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時に十分な説明を行い、その場で不安や疑問点を伺い納得頂いたうえで手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で利用者からの要望を汲み取るようにしている。家族の面会時には意見や要望を話せる雰囲気づくりを心掛けている。玄関に意見箱を設置している。	家族の来訪時に、利用者の日々の生活状況の説明と話し合いを行い、意見、要望の把握に努めています。利用者とは、日々の関わりの中、会話や表情などから汲み取り、ケアサービスや運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの他、日々の業務中でも聞く機会を設けている。年2回の予定で施設長、管理者との個別面談を始めた。	ミーティング、ユニット会議、申し送り等の機会を通じ、職員からの提案、意見、要望等を聞く機会を設けています。内容を検討し、運営に反映するようになっています。また職員に業務に関する目標設定をしてもらい、サービス向上に役立てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に現場の実情を把握してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じ外部の研修に参加させてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの共同で夏祭りを開催したり、事例検討会や外部研修で交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの情報収集を行うのと同時に、入居後は傾聴する時間を多く持つようにして安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時や面会時には不安や要望等を話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望に出来る限り添えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人が出来る事、好きな事を見つけ職員と一緒に楽しみながら行える環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは出来るだけ会話をし理解いただけるよう努力している。日々の本人の様子を毎月の通信で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、電話等関係が途切れないよう支援している。馴染みの場所への外出も出来る限り対応している。	かかりつけ医への通院、友人の訪問や墓参り、電話やハガキなど、馴染みの人や場所との関係継続支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が相性、性格等を把握し入居者同士が関わりを持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の交流はほとんどないが相談等があれば対応する。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から汲み取るようにしている。困難な場合は生活歴や家族の意見や利用者の行動や表情から推し量っている。	生活歴、家族からの情報、日々の関わりでのコミュニケーションを大事に、思いや意向の把握に努めています。困難な場合は、表情なども参考にしています。居室担当者が、生活記録に記載し、情報を共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や情報をもとに生活歴や馴染みの暮らし方、入居までの経過等把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に残し、職員間で話し合い共有し現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族の意向を把握したうえで、職員の気づきや意見を踏まえ作成している。モニタリングは居室担当者が毎月行っている。	利用者、家族の意見や要望をもとに、モニタリング、気づき点などを考慮し、6ヶ月を目途に見直しをしています。モニタリングは、居室担当者及び他の職員も注意深く行っています。体調変化時は随時対応しています。ユニット会議等を通じ、情報は職員の共有となっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録の他に連絡ノートを活用し、気づきや提案を共有し介護計画の見直しや実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況に応じて柔軟な支援やサービス提供を心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の夏祭りや小学校の行事などに参加している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連絡可能な医療機関を確保している。通常は2週間に1度の往診診療が行われている。また入居前からのかかりつけ医があった場合は入居後も受診できるように努めている。	かかりつけ医の受診は、家族または職員対応しています。24時間対応の医療機関と提携し、2週間に1回往診を受けています。診療情報は、ホーム、家族の共有とし、適切な医療受診支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時には情報提供や相談を行い、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には家族、医師、看護師、SWと相談し情報交換に努め早期退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を作成し家族には契約時に説明を行っている。重度化した場合は医師も交えてホームで出来る事、出来ない事を明確にし「見取り介護の同意書」を交わしている。	最近看取りを経験しています。何度も家族、医師、看護師、職員と話し合い、連携し、看取りを行っています。初めての経験でしたが、この経験を活かし、次のステップに繋げる意向を示しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し職員に適宜説明している。救命講習に参加している職員もいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの避難訓練の他、毎月一回の訓練(夜間、地震)を行っている。災害時の備蓄品として飲料水、食料の準備もしている。	防災についての設備や避難場所、緊急連絡網、備蓄品などを整えています。避難訓練も、消防署立会いの下、年2回の訓練の他、毎月行っています。訓練での気付きなどをもとに、災害時における町内の役割など、体制を検討する予定です。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じた声かけの他、排泄や入浴、着替え等の際にも対応に配慮している。	利用者に対する人格の尊重、尊厳ある接遇に努めるよう、職員教育を行っています。職員も利用者への声掛け、入浴、排泄、着替えなど、ケアを行う時点で意識し、注意を払っています。個人情報の管理も適切に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し本人の思いに近い生活が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに配慮したケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人に洋服を選んでもらっている。毎月訪問理美容がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、片づけ等出来る範囲で一緒に会話を楽しみながら行っている。	職員と利用者で、食材を週3回ほど、スーパーへ買い物に行きます。出来る方は調理や片付けなど、職員と協働しています。誕生日などは、利用者の好みを取り入れたメニューにしたり、外食などで変化をつけ、食事を楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や本人が出す排泄したいしぐさからトイレへの声かけや誘導で排泄の自立支援に努めている。	排泄記録を参考に、パターンを把握し、声掛け誘導で自立した排泄支援を行っています。オムツ使用は、出来る限り行わないようにしていますが、夜間は使用する方もいます。リハビリパンツ、パットなどの使用もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、水分摂取量、乳製品やオリゴ糖の使用など心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに週に2～3回の入浴になるようにしている。本人からの希望があれば毎日入浴可能である。	利用者の体調を考慮しながら、平均週2～3回は入浴しています。夏場などはシャワーの方もいます。入浴時のお湯は、その都度入れ替えて、一人ひとり清潔なお湯での入浴を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあわせて対応している。夜間眠れない時には温かい飲み物の提供や話の傾聴など行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用途目的などいつでも見られるようにしてある。症状の変化があればすぐに主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加、散歩、スーパーへの買い物同行など行っている。月に2回の外出レクで気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2回外出行事を企画している。散歩や買い物にも希望があれば出掛けている。	天気の良い日は、近くの公園などへ散歩に出かけています。月2回ほど、レクリエーションで外出機会を設けています。冬場の散歩などは難しいですが、買い物での外出や、3階入口前の広く長い廊下を利用し、歩行するなどして工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと不安な利用者のみ所持している。買い物は職員が同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事にあわせて壁に飾りつけをしたり、植物を置くなど温もりのある空間づくりを心がけている。	玄関ドアは開閉するとチャイムが鳴り、急な出入りをチェックできます。居間は明るく季節の飾りもあり、また、3階なので見晴らしが良く、向かいの小学校が見渡せます。キッチンが居間の方に向いているので、職員は仕事しながら、見守りが出来るようになっています。居室前の氏名や、トイレも分かりやすく表示されています。ホーム内は全般的に清潔に保持されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に設置の椅子や食卓テーブルで利用者同士で会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し本人が使用していた物、馴染みの物を持ってきていただいている。	居室は、洗面台とクローゼットが設置され、使いやすく、また、整理しやすい造りとなっています。馴染みの家具を置き、趣味の習字の作品や、家族の写真を飾ったりして、一人ひとりが過ごしやすい環境作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誰にも聞かずにトイレの場所を理解していただくために「トイレ」と壁に明記して残存能力の発揮に努めている。		